

図書館だより

創刊号

2015年(平成27年)5月25日

新緑の候となりました。新入生の皆さんは大学生活にもだいぶ慣れてきましたでしょうか。日本薬科大学図書館では館長以下職員一同、一丸となって、学生諸君、そして研究者の皆様のサポートをすべく、業務に邁進したいと思っております。図書館では現在どのような仕事をしており、どのような資料を収蔵しているのかは、まずは図書館に足を運んでいただくのが一番ですが、とりあえず、この『図書館だより』で図書館の活動状況やお知らせの概要などについて知っていただこうと思います。当面、年間4～6回程度発行の予定にしています。よろしくお願い申し上げます。

■お知らせ

《図書館職員について》

このたび、日本薬科大学の新図書館長として薬品創製化学分野の船山信次教授が就任されました。船山先生は「毒」の専門家であり、たくさんの「毒」に関する本を執筆されている他、TVやラジオ、新聞などのマスコミでも御活躍中です。

また、やはり本年4月から新しい司書として河野利枝さんが着任されました。現在の図書館のスタッフは次の通りです。どうぞよろしくお願いいたします。(齋藤)

図書館長：船山信次

図書館長付：齋藤正

司書：山口涼子・河野利枝

お茶の水キャンパス：鈴木智恵

《図書館専用の掲示板が新設されました》

図書館からの連絡などを掲示する掲示板が「やっかふえ睡蓮」前の総合掲示板内に新設されました。新着の書籍や図書館における催し物などの案内はここに掲示いたします。未返却本の掲示もここにされますので、遅滞なく、期日までに返却しましょう。(齋藤)

《図書館だよりを創刊しました》

図書館からのお知らせや催し物のお知らせのためにこの『図書館だより』を創刊することになりました。『図書館だより』には、図書館からのお知らせや、新着図書のご案内、催し物の案内、さらには、本や情報に関する図書館長の思いを「図書館長のつぶやき」という題のエッセイとして掲載いたします。なお、この『図書館だより』は図書館専用の掲示板に掲示する他、プリントを図書館内の受付付近の箱に置きますので自由にお取りください。(船山)

《図書館内に飲み物を飲んでもよいコーナーを作りました》

これまで、図書館内では飲食を一切禁止してまいりましたが、試験的に図書館1階のブラウジングコーナー(新聞を置いてある部屋)に限り、飲み物(ソフトドリンクに限ります)を飲んでも結構といたしました。ただし、その場合、このコーナーに図書館所蔵の図書を持ち込まないようにお願いします。また、食べ物は従来通り禁止です。そして、後片付けはしっかりとお願いいたします。皆さんのマナー次第ではまた全面禁止とせざるを得ない事態もあり得ますので、ルールはしっかりと守りましょう。(船山)

《図書館和室でのゼミ開催を提案します》

図書館には日本庭園を見渡せる縁側を備えた16畳と18畳の和室が併設されており、10～15名程度までのゼミ活動(この場合の飲食は御遠慮ください)にも最適と思います。御予約・御質問などは直接、図書館(内線1801～1803)にどうぞ。御利用をお待ちいたしております。(齋藤)

《ミニお宝展を開催しています》

図書館の受付近くにガラスケースを設置し、本学図書館他に収蔵されている「お宝」などを随時展示いたします。現在の展示内容は裏面に示します。(山口・河野)

■新着図書より

《新たに書架に入りました》

すでに掲示板に示しております通り、4月中に47種の前期講義用の参考書、2種の国家試験対策参考書、そして、7冊の講演会寄贈図書が書架に入りましたのでご利用ください。(山口・河野)

■第1回日本薬科大学図書館ミニお宝展

《日本薬科大学図書館所蔵、『中国本草全書』の展示》

日本薬科大学図書館ミニお宝展とは、図書館受付カウンター前にあるガラスケース一つで運営されているものをいいます。今、その第1回目として展示しているのは『中国本草全書』の一部です。この全書は中国文化研究会が編集した膨大なもので403巻（＋附録7巻）からなり、常時、図書館2階の特別書棚に陳列中です。この書籍の値段は、一式650万円。今回は、その第14・16・20・37巻をガラスケースに陳列しました。全巻もちろん二階でご覧になれます。特別書棚には鍵がかかっていますが、希望すれば実物を手にとって見ることもできます。漢方にも力を入れている本学図書館ならではの蔵書のひとつです。日本薬科大学生なら是非一度御覧ください。今回の展示予定期間は4月1日～6月末日の予定です。

なお、次の展示の予定は「君は、日本薬局方初版を見たことがあるか？」です。乞う御期待。（山口・河野）

■図書館長のつぶやき（1）

《大学図書館の役割》

大学は小中高校などと同じく教育機関の一つですが、大きく異なるところもあります。小中高校において、皆さんは様々な知識や技能を身につけるべく学習に励んだことと思います。大学では様々な知識や技能を身につけるための教育も行ないますが、小中高校と明らかに異なるところがあります。それは、大学は新しい「知」を生むところでもあるということです。そのため、大学図書館では皆さんの教育のために役立つと思われる書籍を提供するとともに、新しい「知」を生む目的の書籍や資料も収集・管理・提供しています。すなわち、新しい「知」を生み出す活動を助けるための仕事もしています。

よって、大学図書館では、専門書や一般書のみならず、世界中で刊行された学術論文なども収集され、活用されています。また、図書館には、図書館間相互貸借（としょかんかんそうごたいしゃく）という制度があり、要望のあった書籍や学術論文誌などがないときには他の図書館から図書館を通して借りたり複写（コピー）を入手したりすることが出来るのです。大学図書館においてはこの制度はとくによく利用されています。といいますのは、研究を遂行する場合には種々の学術雑誌に掲載された論文を参照することになりますが、学術雑誌の種類は無数と言ってもいいほどの数となっており、ひとつの図書館でその全部を集積しておくことはとうてい不可能だからです。そのため、ある学術誌に掲載された論文を読みたいけれども、いつも使っている図書館にその学術誌がない場合には図書館を通して他の図書館から目的の学術論文の複写を手に入れるということになります。このことは大学図書館における重要な役割のひとつといえましょう。日本薬科大学図書館でももちろんこの役割を果たしています。もし、皆さんのなかで、新しい「知」を生む活動のひとつである卒業論文研究において、どうしても参照したい学術論文があって、その論文誌がこの図書館にない場合には、是非、ゼミ担当の先生を通してその学術論文の複写を、遠慮なく図書館に依頼してもらってください。図書館では喜んでその複写を手に入れるべくお手伝いをさせていただきます。

一方、公共の図書館の多くは人びとが主に一般教養を身につけることに役立つために設立されています。そのため、現在、著者や出版社からはプーイングも出ているようですが、たとえば、ベストセラーとなった小説の新刊書を複数冊手に入れて貸し出ししたりもしています。当然、大学図書館にこのような機能を求めることは筋違いです。ただ、日本薬科大学図書館においても、薬学や関係する学問に関係する一般書（文庫や新書も含めて結構幅広い）も多く収蔵していますから、とにかくにも、是非、時間を工面して図書館に足を運んでみたらいかがでしょうか。そして、もしどうしても読みたいがこの図書館には無い、しかし、この図書館に収蔵されれば有用であろうと思われる書物があったら、所定の申込用紙がありますから、是非図書館員にその旨の希望をお話してください。要望された書籍は図書委員会にて審議の上、OKとなれば購入されます。

日本薬科大学図書館では皆さんの勉学や研究にお役にたてるよう、これからも日々の仕事を鋭意続けてまいります。図書館は年々その情報量が増大し、情報処理能力が向上していく施設です。そして、皆さんからの様々な要望がこちらの励みになり、図書館員の技能の向上にもつながります。今後とも、大いに日本薬科大学図書館を活用してくださいませようをお願いいたします。（船山信次）

発行：日本薬科大学図書委員会

委員長 船山信次

委員 木村道夫

齋藤 正

山口涼子

河野利枝

青木公子

太田友三子

鈴木智恵